

事例 1

製造業未経験のパート事務員だった 社長が考える仕組みづくり ～腕みがき・人みがき・会社みがきの巻～

梅田八寿子

(株)開明製作所

(株)開明製作所は1956年にねじ製造業として横浜市保土ヶ谷区で設立し、現在は旭区に移転した本社工場と鶴見区の第2工場との2拠点で操業しています。金属と樹脂に複合旋盤やフライス盤による超精密で微細な加工を施し、規格外で特殊な小さい部品を受託製造しています(写真1)。多品種少量生産で、一点物も手掛け、納品先は企業をはじめに個人や大学や研究室もあり、その業界は半導体・輸送・医療・インフラ・食品など多岐に渡っています。また、袋穴洗浄機や吸引式乾燥機などの装置もつくり、ニューモデルの開発検討中です。展示会がきっかけでインテリア品などの試作も始めました(写真2)。

現在の社員構成及び組織を表1、2に示します。ほかに当社業務を副業とする内職社員も2名います。女性比率(55%)が製造業としては高くなっています。これはきめ細かい顧客対応のために増員(間接職:45%)してきたことと超短時間・少日数雇用(パート・アルバイト社員:55%)を推

進し、製造現場での女性採用(製造部内46%)を積極的に進めてきた成果でもあり、全部署に女性が在籍しています。全員が未経験者からのスタートです(写真3)。

入社後の認識の変化とスキル獲得への取組み

筆者は幼い頃に「モノ壊しとモノづくり」の楽しさに目覚めて以来「まず、やってみよう」を実践しています。実家は3代続く中小企業で、家業に関わったことは1度もありません。大学は理学部を卒業後、いったん地元で就職しましたが、翌年に結婚して以来、神奈川在住です。

結婚後、専業主婦歴を経て、1996年4月に当社にパート事務員として採用されました。念願の社会復帰でした。仕事は楽しく、水を得た魚の如く寝食を忘れるほど働きました。製造業初心者の私には見るもの聞くもの初めてのものばかりでした。私が手掛けた仕事を紹介します。



写真1 製造する部品



写真2 インテリア品の実用新案